

第303号

2011年

2月24日

# どついたニュース

全損保日動外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日動ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

## 職場紹介シリーズ

徳島だけがなぜ支社と同階に設置されなかったのか？

# 閉塞した職場環境を何とかして欲しい



今回は事務折衝で議題に取り上げられている徳島職場の状況について報告します。

1ページに掲載されている写真が、まごころ社が設立されるまで当該組合員が働いていた徳島支社の執務スペースです。場所的統合、合併を経て、6年以上この職場で働いてきました。他従業員との人間関係も築かれていたはずです。



下の写真を見てもわかるように、支社の執務スペースには接客ブースがいくつかあります。他の職場ではこうした接客スペースや支社の執務スペースがまごころ社の支店スペースに充てられました。会社は「スペースが確保できない旨の話しをし、当該者の確認も得ている」と言いますが、当該組合員はもちろん、こうした全国の状況について説明を受け納得したわけ



ではありません。「全員が自分と同じ状況で仕事をしていると思ったが、仲間から話しを聞き、はじめて自分だけが違う階で仕事をしていることがわかった」と言います。当該者も含め、交渉をしても「どうして徳島だけが……」という疑問を払拭できません。こうした全国のまごころ社の支店の設置状況については、



ではありません。「全員が自分と同じ状況で仕事をしていると思ったが、仲間から話しを聞き、はじめて自分だけが違う階で仕事をしていることがわかった」と言います。当該者も含め、交渉をしても「どうして徳島だけが……」という疑問を払拭できません。こうした全国のまごころ社の支店の設置状況については、

細目協議のなかでも、会社から話されることはありませんでした。

2 ページに掲載している写真が、支社の上階に設置されたまごころ徳島の室内状況です。同階には徳島支店の支店長席や業務グループはありますが、合併以来在籍し、慣れ親しんだ徳島支社と切り離されたため働く仲間とのコミュニケーションは、極めてとりにくく、新たな人間関係づくりも困難であり、孤立感すら感じる状況にあります。



当該者と同じように地方の一人職場で働く組合員は「電話や会話など、慣れ親しんでいる声が壁を伝わって飛び込んでくることで閉塞感が薄まっている」「支社に来た旧知の代理店さんが顔を出してくれることで気分がなごむ」という実態を話しますが、この徳島の職場環境でそれはのぞめません。出向社員という身分となり、執務スペースは壁で仕切られ、ただでさえ他社員とのコミュニケーションがとりづらい環境にある時、

せめて閉塞感を感じないような職場環境をつくって欲しいとのぞむのは決して法外な要求ではないはずです。

現在、交渉は解決の糸口すら見出せていません。組合としてはこの状況を打開するため、当該者の意向を確認したうえで、「規定のスペースを切り下げても良いから、支社と同階への支店移設を考えて欲しい」と申し入れを行っています。



以上